

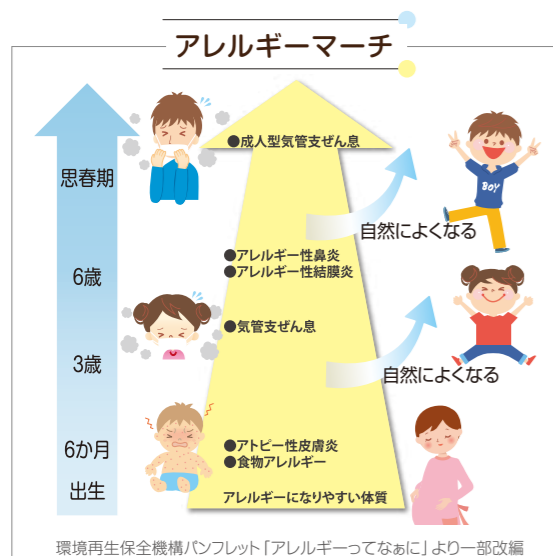
ご協力ありがとうございます！
質問票
千葉ユニットセンター
8歳までの質問票集計結果から



子どもたちのアレルギー疾患

エコチル調査では毎年、子どもたちがかった病気について、質問票に回答していただいています。今回は1歳から、ほぼ回収が終了した8歳質問票までの回答をもとに、子どもたちのアレルギー疾患の状況について調べてみました。

(2023年7月5日時点の千葉ユニットセンターのデータに基づく^{ざんていき}暫定的な結果です。回答4127~5265件)



子どものアレルギー疾患は、多くの場合、乳幼児期にアトピー性皮膚炎、続いて食物アレルギー、気管支ぜん息、アレルギー性鼻炎のように、成長するにつれて違う症状が出てきます。これを「アレルギー・マーチ」と呼びます。

エコチル調査の結果でも、このように症状が変わっていく様子が見られます。

主なアレルギー疾患の解説は3~4ページをご覧ください

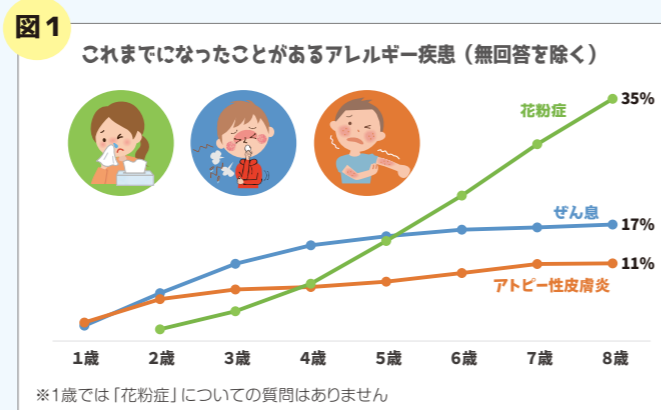
これまでになったことがあるアレルギー疾患

「お子さんは、今までに〇〇になったことがありますか?」という質問で、ぜん息、アトピー性皮膚炎、花粉症について質問しています。

1歳から8歳までで、この質問に「はい」と回答した人の割合を見てみましょう。(図1)

1歳までに、ぜん息やアトピー性皮膚炎になったことがある子どもは、2~3%でした。

ぜん息になったことがある子どもは5歳頃まで増え、そのあとはあまり増えていません(青い線)。アトピー性皮膚炎になったことがある子どもは7歳頃までなだらかに増えていきます(オレンジの線)。花粉症になったことがある子どもは、2歳の時は2%でしたが、成長するにつれて急激に増え、8歳では35%でした。8歳の子どもでも、すでに3人に1人が花粉症になっているのですね(黄緑の線)。



医療機関を受診しているアレルギー疾患

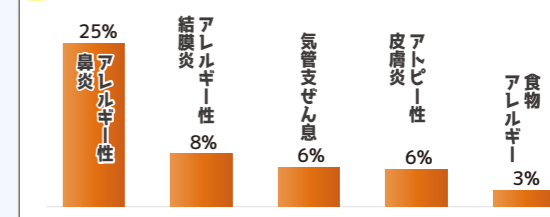
「△歳からこれまでの1年間に、以下の病気で医療機関を受診したことがありますか(現在も継続して通院、治療している場合も含みます)」という質問では、もう少し細かくアレルギー疾患についてお伺いしています。8歳での回答(7歳から8歳までに診察を受けた疾患)を見てみましょう。(図2)

アレルギー性鼻炎が25%と特に多く、4人に1人はアレルギー性鼻炎で医療機関を受診していました。次に多かったのがアレルギー性結膜炎でした(8%)。

図1で、8歳までにぜん息になったことがある子どもは17%、アトピー性皮膚炎になったことがある子どもは11%でしたが、7歳から8歳までにぜん息やアトピー性皮膚炎で受診した子どもは6%でした。年齢が上がるにつれて、症状が落ち着いてきたお子さんがいるようです。ただし、症状が悪化するまで受診しないこともあるとされています。早めの受診を心がけたいですね。

食物アレルギーで受診した子どもは3%でした。

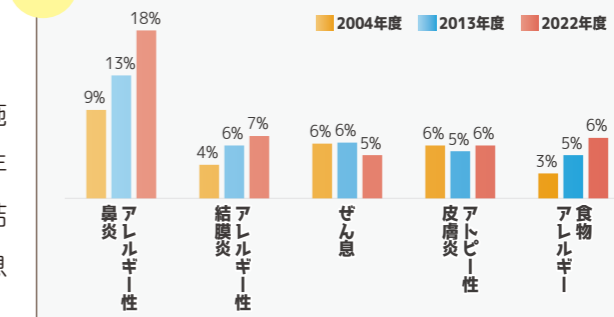
図2 7歳から8歳までに診察を受けたアレルギー疾患



アレルギーの子どもは増えている?



図3 小学生~高校生のアレルギー疾患有病率



〔令和4年度 アレルギー疾患に関する調査報告書〕より

日本学校保健会が全国で小学生~高校生について実施した調査結果を公表しています。これによると、2004年度から2022年度で、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎と食物アレルギーのある児童・生徒が増え、ぜん息とアトピー性皮膚炎の割合はほぼ横ばいでした。(図3)

アレルギー疾患が増えた原因と考えられているもの



アレルギー疾患が増えたことには、文明が発展し、生活環境やライフスタイルが変化していると考えられています。便利な生活を捨てて、昔の生活に戻ればアレルギー疾患は減りますが、感染症は増えるかもしれません。難しい問題ですね。

これまでに世界各国で行われた研究から、アレルギー疾患が増えた原因と考えられているものがいろいろあります。エコチル調査では、日本の子どもたちの中で、何がアレルギー疾患に関係しているのかを明らかにするため、研究を進めています。

質問票には、環境や健康の状況をより正確に調べるために、さまざまな質問があります。ご面倒とは思いますが、これからもご回答をよろしくお願いいたします。

皆さんからの質問票あってこそ!のエコチル調査です

